

# ほんがいっぱい



## よんでみよう!

### 3・4年生のための本

#### ①『おめでたこぶた -四ひきのこぶたとアナグマのお話-』《Fア》

アリソン・アトリー／作 すがはら ひろくに／訳 やまわき ゆりこ／画 福音館書店

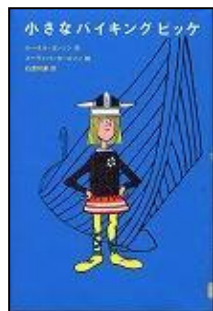
森のはじっこもりの小さな家ちいにトム、ビル、アン、サムという名なの四ひきのこぶたよんがくらしています。ある日ひ、オオカミおおかみが物売りものうりにばけてやってきました。荷物にもつの中には、うなり独楽なかににビー玉こま、ジャムケーキ。こぶたたちは思おもわず、ドアをあけそうになりますが…。



#### ②『小さなバイキングビッケ』

ルーネル・ヨンソン／作 エーヴェット・カールソン／絵 いしわたり としやす やく 評論社 《Fヨ》

昔むかし、船ふねに乗のって遠とおい町まちに行いき金銀財宝きんぎんざいほうをうばうバイキングとよばれる人ひとたちがいました。いさましいバイキングたちなかの中で、けんかすが得意おくびょうものでないビッケは“臆病者”とよばれています。けれどもビッケには他ほかのどのバイキングも持もっていない武器ぶきがありました。



ところざわしりつところざわとしよかん 所沢市立所沢図書館 2013年

#### ③『クリスマスのりんご』

ルース・ソーヤー、アリソン・アトリーほか／文 福音館書店 《Fク》  
上條 由美子／編・訳

その町まちにはふしぎな言い伝えいがありました。クリスマスに大聖堂だいせいどうのイエス像ぞうにすばらしい贈り物おくものをささげると、その像ぞうが動うごいて受け取るうというのです！ 時計作りとけいづくのヘルマンは、何年なんねんもかけてイエスさまに贈り物おくものの時計とけいを作つくっていました。しかし、となりの家いえの子こどものため、その時計とけいを売うることになり…。



#### ④『シールの星』

岡田 淳／作 ユン・ジョンジュ／絵 借成社 《Fオ》

3年生ねんせいのクラスでは、テストで満点まんてんをとると星ほしのシールべんきょうをくれる。でも、しんちゃんべんきょうは勉強べんきょうがとくいじゃないからまだゼロ。1まいでいいから、しんちゃんに星ほしをとらせたい！ おなじ班はんのマアコと一平いっぺいは、しんちゃんに満点まんてんをとらせようと、放課後ほうかごの教室きょうしつで勉強べんきょうをおしえることにした。



#### ⑤『ゆうかんなテディ・ロビンソン』

ジョーン・G・ロビンソン／作・絵 小宮 由 やく 岩波書店 《AFロ》

くまのテディ・ロビンソンは、ぬいぐるみだけぬし、もち主おんなの女この子こ、デボラとおしゃべりしたり、歌うたを作つくってうたったりできるんです。ある日ひ、デボラかいすいよくと海水浴かいすいよくにいったテディ・ロビンソンは、人魚にんぎよにさそわれ海うみの中なかへ。すると、からだからだがだんだんおもくなり…。



## ⑥『バックルさんとめいけんグロリア』

ペギー・ラスマン／さく・え ひがし はるみ／やく 徳間書店 《Eラ》

バックルさんは、ナップビルのまちのおまわりさんです。小学校で安全教室をしています。子どもたちはぜんぜん聞いてくれませんが、ある日、グロリアというけいさつ犬がやってきました。安全教室に連れて行くと、子どもたちは大喜び！安全教室は大人気になりました。でも、その人気の秘密は…。



## ⑦『はじめての古事記 日本の神話』

竹中 淑子・根岸 貴子／文 スズキコージ／絵 徳間書店 《91. 9》

むかし、むかしの大むかし。この世には天も地もなく、もやのようなものがうずまいていた。やがて天と地がわかれ、たくさんの神がみがあらわれた。男神イザナキと女神イザナミは、天の沼矛で海をかきまわし島をうんだ。そしてその島でけっこんし、たくさんの神がみをうんだ。さいごに火の神をうんだが…。



## ⑧『じったんのオムライス』

大久保 美行／作 大野 八生／画 くもん出版 《Fオ》

ママが指を骨折してしまいました！料理がとくいな兄ちゃん、ごはんをつくり、ママにほめられ、おおいばりだ。ぼくも料理をつくっておいしいっていわせたい！ぼくはじったんに料理を教えてもらおうと思った。じったんはママのお父さんで、もと料理人なんだ。



## ⑨『ドライアイスであそぼう』

板倉 聖宣・藤沢 千之／著 丹下 京子／絵 仮説社 《43》

アイスクリームの箱にはいつているドライアイス。それをポリぶくろにいれ、口をしぼるとだんだんふくらんで…ついに爆発！それはいったいなぜ？ドライアイスのひみつと実験がたくさんのってるよ。



## ⑩『なんでも見える鏡 シブシーの昔話』

フィツオフスキ／再話 内田 莉沙子／訳 スズキコージ／画 福音館書店 《M》

なんでも見える鏡から、うまくかくれることができたなら王女の夫になれる。そこでジブシーは川へいき、さかなの口のなかへ…。

## ⑫『きのこ ふわり胞子の舞』

埴 沙萌／写真・文 ポプラ社 《47》

きのこがけむりをだしている!? いいえ、けむりにみえるのは、“胞子”。きのこの「たね」です。

## ⑭『ふじさんとおひさま』

たにかわ しゅんたろう／詩 さの ようこ／絵 童話屋 《91. 1》

おひさま、かけっこ、なわとび、ともだち、など身近なテーマの詩がたくさんあるよ！

## ⑪『タネオがきた』

すとう あさえ／作 福田 岩緒／絵 文研出版 《Fス》

入院中のひいじいさんが大切にしていた大クヌギ。その実が芽を出したら、きっとひいじいは元気になる！そう信じたタミオは…。

## ⑬『おっばいのひみつ』

柳生 弦一郎／さく 福音館書店 《49》

女の人のおっばいはなぜ大きい？ 男の人は大きくなるの？ おっばいはひみつがいっぱい！

## ⑮『セミたちの夏』

筒井 学／写真と文 小学館 《48》

セミは枝のなかで卵を産みます。次の夏、生まれた幼虫は木から落ちて土の中へ。そして5年後…。